

科目（講座名）	世界史B	3単位
教科書	改訂版「詳説世界史B」（山川出版社）	
副教材	「アカデミア世界史」浜島書店	

学習の目標

国際社会に生きる現代人としての資質をみがく。
過去の社会の仕組みを知り、現代社会を理解する。
模試の進度も考慮し、実力の養成を行う

授業内容

講義を中心に行う。可能な限りICTなどの視聴覚教材を利用する。また、考査に併せて小テスト、確認テストを授業に組み込む。

学習方法

授業中は、講義を聞き、板書内容を記入し説明を自分で書き加えていく。授業内容は、毎時間、資料集にある年表、地図、その他の資料で確認し、時代、地域を把握しながら知識を深める。
・定期考査、確認テストによる繰り返し学習で実力をつける。

評価の観点

関心・意欲・態度	授業中、集中して授業に取り組んでいるか。復習を行い、小テスト、定期考査の繰り返し学習において合格点が取れているか。不明な点を質問などによって解決し次の学習につなげているかで判断する。
思考・判断	歴史上の地名・人物について考察し、それらがどのように現代社会形成の要素となったかを理解している。 世界史的な事象に対し原因と結果に着目し、歴史事象を正確に理解しているか。世界史の法則性を時代、地域を横断して考えられているか。
技能・表現	板書内容をプリント、ノートに記入し、解説を自ら付け加え復習に生かせるものとしているか。
知識・理解	世界史を形成した事件や人物について十分な知識と理解をし、それらが現代社会を構成するもととなっていることを理解している。

評価方法

上記の観点について、定期考査（小テスト、確認テストを含む）及び平常点（提出物、授業態度、その他）を含め、年間の成績を総合的に判断し評価する。

地理歴史

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点		
1	4	39	先史の時代 オリエントと地中海世界 インドの古典文明	人類進化の歴史を学ぶ オリエント及び地中海周辺海域の古代文明を扱う (自宅学習期間に動画で支援、再開後、集約して学期中に同内容を行う)	猿人から始まる化石人類の進化の流れを理解させる。 古代メソポタミア地域の「肥沃な三日月地帯」が農耕文明の広がりにも果たした役割に着目する。		
	6			エーゲ文明からギリシア文明への変化とギリシア世界の特色を学習する	ギリシア文明では、ポリス社会の独特の仕組み留意し、ローマとの比較によって古代社会の民主主義について理解させる。		
	7			ローマでは、共和政ローマと帝政ローマの過渡期の出来事を学習する。 インダス文明の広がり インド・東南アジア諸文明について学習する *自宅学習期間については調べ学習を中心とする	共和政ローマから帝政ローマへの転換、帝政ローマ期の元首政と専制君主政の違いに注意する。 インド、東南アジア諸文明を学ぶ		
2	9	42	中国の古典文明	中国文明の変遷を唐時代まで学習する。	中国文明の興亡過程における征服王朝の役割を理解させ、漢民族と遊牧民族の関係にも着目させる。 東西交易路の中国文明にも果たす役割に着目する。		
	10			イスラーム世界の形成と発展	アラブ世界からイスラーム世界へ発展していく経過を学ぶ	なぜ、イスラームが一神教としてアラブ世界に誕生し、急速に発展したのかに着目する。欧州世界、アジア世界との対立、交流を通じてイスラーム教が周辺世界にどのような影響を及ぼしたかを理解する。	
	11		第二次世界大戦			世界恐慌から第二次世界大戦を戦間期と太平洋戦争を中心に学習する。また、戦後の世界にも触れ、現代社会への関心を高める	修学旅行で沖縄学習を行うことに連動して戦争の経過、結果を学習する。また、戦争の契機となった世界恐慌についても現在の世界経済と絡めて学習する
	12						
3	1	24	ヨーロッパ世界の形成と発展	ゲルマン民族の大移動に始まるヨーロッパ世界とその発展を学ぶ	ゲルマン民族の移動からスラブ民族など周辺に及んだ影響とキリスト教世界が確立される一方でイスラーム世界との衝突など横の世界史にも着目する。		
	2						

	3				
--	---	--	--	--	--

科目（講座名）	日本史B	3単位	必修選択
教科書	詳説日本史B（山川出版）		
副教材	最新日本史図表（第一学習社） 入試に出る日本史一問一答（Z会）		

学習の目標

系統化された歴史学体系の視点・概念・知識を得る過程で、生徒一人ひとりが歴史観・歴史哲学を涵養し、より良い歴史の創造者・主権者となる手がかりをつかむことを目標とする。

授業内容

「第1章 日本文化のあけぼの」から「第8章 幕藩体制の動揺」を扱う。
1年間のテーマとして「世界の中の日本」を設定し、日本と外国の交流や相互理解などに着目して、外国人が日本をどう見ていたか、また日本人が世界をどう見ていたかについて追究する。
修学旅行先である沖縄に関連した資史料を活用し、東アジアやヨーロッパ諸国との外交を適宜取り扱う。

学習方法

板書を中心とした一斉授業形式。必要に応じてプリント学習を併用する。図表・史料集・ワークを随時使用する。
小テストを実施し、単元で学習した基本事項などを確認する。

評価の観点

関心・意欲・態度	各時代の政治体制や文化の特色に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。課題やプリントに意欲的に取り組み、決められた期日までに提出している。
思考・判断	中央集権や地方の支配体制の変遷や経済・文化の動向から課題を見出し、東アジア世界との関係や地方の動向と関連づけて多面的・多角的に考察している。
技能・表現	政治権力の変遷や文化の特色に関する現物資料・文献などの史料を活用し、追究・考察した過程や結果を適切に身につけている。身につけた基本事項を議論や論述する場面で適切に活用している。
知識・理解	政治・経済・文化等についての基本的な事情を、東アジア世界との関係の変化と関連づけて理解し、その知識を身につけている。

評価方法

定期考査を基本に、小テスト・ノート・プリント等の提出物により平常点を加味し、上記の観点を総合して評価を行なう。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4		第1章 文化のはじまり 農耕社会の成立	旧石器時代の日本列島地域 縄文時代の文化と社会 弥生時代の文化 小国の分立と統合の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・古代東アジア世界について、世界史との連携をはかりながら、東アジア世界との交流や日本の諸地域の動向など、世界史的視点や地域的視点などから多面的・多角的にとらえさせる。 ・基本的語句・人名などをよく理解させ、必要に応じて小テストを実施する。 ・身につけた力(基本事項)を活用し、歴史観を深めさせるため、調べ学習を適宜取り入れる。
	5		古墳とヤマト政権	ヤマト政権の形成と古墳文化 ヤマト政権と東アジア世界 隋の成立とヤマト政権	
	6		第2章 飛鳥の朝廷 律令国家の成立	律令国家の成立 ～天平文化と国家仏教	
	7		第3章 貴族文化と国風文化	平安京と律令制の再編 ～摂関政治と貴族社会	
2	9		第4章 中世社会の成立 院政と平氏の台頭	平安時代の地方社会 貴族文化の展開 院政と荘園公領制 ～平安末期の文化	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジア世界との関係の変化、公領の変質や荘園の拡大、武士の台頭などに着目して、律令制の変質と摂関政治や院政の展開を理解させる。 ・産業経済など中世社会の多様な展開を幅広くとらえさせるとともに、庶民の活動が従来の社会秩序を変える原動力になり得たことに気づかせ、現在日本の生活文化の原型が形成されることに注目させる。 ・基本的語句・人名などをよく理解させ、必要に応じて暗記させる。
	10		武士の社会 鎌倉文化	鎌倉幕府の成立～鎌倉文化 モンゴル襲来と幕府の崩壊 ～南北朝・室町前期の文化	
	11		第5章 室町幕府の成立 幕府の衰退と庶民の台頭	室町時代の社会と幕府の動揺 ～室町後期の文化 ヨーロッパ文化との接触 ～桃山文化	
	12		第6章 幕藩体制の成立 織豊政権	江戸幕府と大名・朝廷 キリスト教禁止と鎖国	
3	1		第7章 幕政の安定 経済の発展	身分制度の確立 江戸初期の文化 幕府政治の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・幕藩体制の特色を、政治的・社会的な背景と関連させて理解させる。 ・社会構造の変化による幕藩体制動揺の過程と、近代を準備する新しい要素の形成について理解させる。 ・基本的語句・人名などをよく理解させ、必要に応じて小テストを実施する。
	2		第8章 幕政の改革 幕府の衰退	経済と産業の発展 元禄文化 田沼時代と経済発展 寛政の改革と海防問題	
	3		演習 文化史	問題演習	

科目（講座名）	数学B	2単位	必修選択
教科書	数学B Standard（東京書籍）		
副教材	STAGE 数学B（東京書籍）		

学習の目標

数列、ベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。

授業内容

1章 数列	
1節 数列	1. 数列 2. 等差数列 3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和
2節 いろいろな数列	1. 数列の和と記号 Σ 2. 階差数列と数列の和 3. いろいろな数列
3節 漸化式と数学的帰納法	1. 漸化式 2. 数学的帰納法
2章 ベクトル	
1節 平面上のベクトル	1. 有向線分とベクトル 2. ベクトルの加法・減法・実数倍 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積
2節 ベクトルの応用	1. 位置ベクトル 2. ベクトルの図形への応用 3. ベクトル方程式
3節 空間におけるベクトル	1. 空間座標 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの内積 4. 位置ベクトルと空間の図形

学習方法

総合クラスでは少人数による指導を、必修となつている特進クラスでは習熟度別のクラス展開をし、生徒の理解に合わせて木目細かい教科指導を行っていく。
「例」や「例題」の解説、「問」や各節末の「Training」及び各章末の「Level Up」などで、問題演習を行い、学習事項を確認する。また、副教材、プリント等で補足の学習を行う。

評価の観点

関心・意欲・態度	数学的活動を通して数列、ベクトルにおける考え方に興味をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。
数学的な見方や考え方	数学的活動を通して数列、ベクトルにおける数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。
表現・処理	数列、ベクトルにおいて、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。
知識・理解	数列、ベクトルにおける基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。

評価方法

定期考査を中心に、課題テスト、課題等の提出状況及びその内容、日頃の学習態度等を年間を通して総合的に判断し、評価する。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	6 7	18	1章 数列	1節 数列 1. 数列 2. 等差数列 3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和 2節 いろいろな数列 1. 数列の和と記号 Σ 2. 階差数列と数列の和 3. いろいろな数列 3節 漸化式と数学的帰納法 1. 漸化式 2. 数学的帰納法	等差数列、等比数列の一般項とその和について理解し、それらを用いて事象を数学的に考察し処理できるようにする。 和の記号 Σ を用いて数列の一般項や和を求めたり、漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを用いて事象を数学的に考察し処理できるようにする。
2	9 10 11 12	26	第2章 ベクトル	1節 平面上のベクトル 1. 有向線分とベクトル 2. ベクトルの加法・減法・実数倍 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 2節 ベクトルの応用 1. 位置ベクトル 2. ベクトルの図形への応用 3. ベクトル方程式 3節 空間におけるベクトル 1. 空間座標 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの内積 4. 位置ベクトルと空間の図形	ベクトルについての基本的な概念を理解し、基本的な図形の性質や関係をベクトルを用いて表現し、いろいろな事象の考察に活用できるようにする。
3	1 2 3	16	総合演習	1. 数列 2. ベクトル	数列とベクトルの総合演習をして、入試問題に取り組めるようにする。

科目（講座名）	化学	3単位	選択必修
教科書	化学 改訂版（啓林館）		
副教材	「新訂 エクセル 化学」（実教出版）		

学習の目標

化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探求する能力と態度を身につけるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。

授業内容

「物質の状態と平衡」、「物質の変化と平衡」、「無機物質の性質と利用」、「有機化合物の性質と利用」、「高分子化合物の性質と利用」、について観察・実験などを通して探究し、理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。

学習方法

- ・教科書を通して、基本的な知識の定着をはかる。
- ・問題集により演習を行い、反復練習により、確かな学力を身に付ける。
- ・観察・実験を通して基本的な原理・法則を理解する。

評価の観点

関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・講義式、実験式いずれの授業においても集中力を保つ ・授業で得た結果をもとに発展的な興味関心をもって自主的活動を行う
科学的な見方・考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容について科学的な捉え方ができる ・授業の成果をいかして社会や生活との関連を考えられる ・発展的な内容について思考を展開させられる
表現・処理	<ul style="list-style-type: none"> ・実験操作の意味をよく理解し、実技のレベルが的確である ・実験結果に対する考察が充分であり、その内容を適切に伝達できる
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだ内容を相互に関連付けて整理され定着している ・知識を用いて発展的な応用ができる

評価方法

定期考査及び平常点（提出物（ノート、レポート等）、授業への取り組み、観察・実験に対する姿勢、その他）を含め、年間の成績を総合的に判断し評価する。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点	
1	4	3	固体の構造	粒子の結びつきと結晶 結晶の構造	結晶格子の概念及び結晶の構造を理解する。	
		3	物質の状態変化	状態変化 気液平衡と蒸気圧	物質の沸点、融点を分子間力や化学結合と関連付けて理解する。	
		6	気体の性質	気体の体積の変化 気体の状態方程式	気体の体積と圧力や温度との関係を理解する。	
	6	6	溶液の性質	溶解平衡と溶解度 希薄溶液の性質・コロイド	溶解度を溶解平衡と関連付けて理解する。	
		7	7	化学反応と熱・光エネルギー	反応熱と熱化学方程式 ヘスの法則 化学反応と光	化学反応における熱及び光の発生や吸収は、反応の前後における物質のもつ化学エネルギーの差から生じることを理解する。
	7	5	化学反応と電気エネルギー	電池、電気分解	電池の仕組みを、酸化還元反応と関連付けて理解する。	
2	9	4	反応速度	反応の速さ 化学反応と触媒	反応速度の表し方及び反応速度に影響を与える要因を理解する。	
		4	化学平衡	化学平衡とその移動 電離平衡	可逆反応、水のイオン積、pH及び弱酸や弱塩基の電離平衡を学ぶ。	
	10	11	有機化合物の特徴と分類	有機化合物の特徴と分類 有機化合物の分析	有機化合物の一般的な性質や構造を理解し、分類や分析の仕方を学ぶ。	
		11	3	脂肪族炭化水素	飽和炭化水素、不飽和炭化水素	脂肪族炭化水素（官能基を持つものを含む）の性質や反応を構造と関連付けて理解する。
		8	8	酸素を含む脂肪族化合物	アルコールとエーテル アルデヒドとケトン カルボン酸とエステル エステルと油脂	酸素を含む有機化合物について、構造や性質を理解する。
12	8	8	芳香族化合物	芳香族炭化水素、酸素、窒素を含む芳香族化合物 有機化合物の分離	芳香族化合物の構造、性質及び反応について理解する。	
3	1	6	生活と有機化合物	医薬品、染料と洗剤、糖類とアミノ酸	人間生活に利用されている医薬品などの有機化合物を学ぶ。	
		2	3	天然高分子化合物	高分子化合物の分類と特徴	天然高分子化合物とそれを構成している化合物の構造や性質について理解する。
	3	6	6	合成高分子化合物	高分子化合物の合成 合成繊維 プラスチック	石油から人工的につくられた合成繊維やプラスチックの製法や構造、性質、用途などを理解する。
		8	8	生活と高分子化合物	繊維 高分子化合物の利用	

科目（講座名）	音楽Ⅱ	2単位	必修選択
教科書	高校音楽Ⅱ Music View（教育出版）		

学習の目標

音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

授業内容

- ・歌唱、器楽合奏などを通じて技術・表現力を高める。特に楽譜に書かれていることを読み取り、表現する力を育てる。
- ・グループでの活動を通じて仲間と協力して一つの作品を作り上げる達成感を感じとる。
- ・鑑賞を通じ楽曲の文化的・歴史的背景や作曲者及び演奏者による表現の特徴について理解を深める。
- ・日本の伝統音楽（歌舞伎・能）に触れ様々な音楽文化の背景を理解しレポートにまとめお互い発表する。

学習方法

一斉学習、グループ学習

評価の観点

音楽への関心・意欲・態度	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の授業に取り組もうとする。
音楽表現の創意工夫	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。
音楽表現の技能	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、創造的に表している。
鑑賞の能力	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、解釈したり、価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。

評価方法

「音楽への関心・意欲・態度」「音楽表現の創意工夫」「音楽表現の技能」「鑑賞の能力」の4観点により授業中の様子・提出物・実技テストなどを通して総合的に判断する。

芸術

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	2 6	鑑賞	おすすめ曲調べ・発表	・自分でおすすめの曲の音楽的特徴、背景等をレポートにまとめる。その曲の良さを根拠を持って発表する。
	5		鑑賞	日本の伝統音楽 (歌舞伎・能)	・日本の伝統音楽を学習し、特に興味を持った事柄について詳しく調べる。表現意図をもってレポートにまとめる。
	6		器楽	・ヴァイオリンの基礎 独奏曲の演奏	・正しい奏法を身につけ、楽器の音色や奏法の特徴と表現とのかかわり理解する。
2	9	2 8	器楽	・ヴァイオリンの基礎 独奏曲の演奏	・正しい奏法を身につけ、楽器の音色や奏法の特徴と表現とのかかわり理解する。
	10		器楽・合奏	グループ演奏会の企画・練習・発表	・グループで協力して一つの楽曲を選曲し楽曲構成・表現を共有し音楽を創りあげることが意識させる。
	11		歌唱	「発声法」「ミュージカル」	・楽曲にふさわしい発声や曲想と歌詞の内容とのかかわりや言語の特徴を理解し表現意図をもって歌う。
	12		器楽・合奏	中間発表 実技試験（ヴァイオリン・ミュージカル曲）	・中間発表を行い、進捗状況の確認とお互い意見を出し合うことの大切さを確認する。
3	1	1 6	器楽・合奏	本発表	・中間発表を改善し技術のみでなくどのように観客を音楽で惹きつけるかを工夫する。
	2		合唱	合唱	・2年間の総まとめとしてクラスで協力して一つの合唱曲を完成させる。
	3		鑑賞	民族音楽（アジアを中心として） 実技試験（合唱曲）	・各国の音楽に触れる中で、それぞれの国や地域の音楽文化や美意識の違いと共通点に興味をもち、自己の音楽観を広げる取り組みに繋げる。

科目（講座名）	美術Ⅱ	2単位	必修選択
教科書	美術2（日本文教出版）		

学習の目標

様々な表現の方法を学び、それらを主題や意図に応じて制作に生かしていく力を育てる。
鑑賞の意欲、能力を高める。

授業内容

素描による人物表現
 油画による絵画表現（風景画）
 明度、彩度、色相、トーン等の色彩学習
 色彩構成によるデザイン基礎の学習
 木等の素材を使った造形

学習方法

一斉授業
 グループ学習
 個人またはグループによる制作
 複製画、DVDやビデオ等による鑑賞

評価の観点

関心・意欲・態度	美術を愛好し、表現の主題や形式などに幅広く関心を持ち、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。
芸術的な感受や表現の工夫	感性を働かせて美術のよさや美しさを感じ取り、豊かに発想し創造的表現を工夫する。
創造的な表現の技能	創造的な表現をするために材料・用具を生かして表現する技能を身に付けている。
鑑賞の能力	作者の心情や意図と表現の工夫、生活や自然と美術との関連、日本の美術の歴史などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わう。

評価方法

上記の観点について、出席状況、授業態度、制作過程や作品・レポート等の提出物の内容、鑑賞時の意見等を、年間を通じて総合的に評価する。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	10	木炭素描	今の自己の姿を見つめ、鉛筆素描で表現する 目、鼻、口等のパーツや、頭部、首、肩のバランス 質感、立体感の表現	筆圧、スピード、持ち方などを工夫する。 表面的に似ているか否かだけでなく、それぞれの迫り方を知る。
	5	18	シルクスクリーン (染色・版画)	自らの主題を表現するための構図 染を知識と実技 切り抜きによる技法の工夫 空間表現 細部描写 透明表現、不透明表現	版画の技法で何ができるのかを考え、効果的効率的に制作を進める。 表現のねらいに応じて、染や切り抜きの工夫をする。 切り抜きを重ねて奥深い表現にする。
	6				
7					
2	9	2	鑑賞	他者のデザインの発想力を感じる	身の周りのデザインに目を向ける。 デザインに潜む発想や考え方を知る。
	10	24	伝統芸術	用途、素材の特徴をふまえ、表現を工夫する 発想、構想、制作、仕上げの一連の行程を理解し、計画的に活動する 表現意図に応じ、仕上げを工夫する	アイデアスケッチを行い、発想を豊かにする。 発想、作業の丁寧さ、仕上げの美しさ等、各自の得意な所を生かして制作する。
	11				
12	2	鑑賞	創造力を活かした作品の鑑賞		
3	1	16	粘土による立体制作	彫刻刀を使って立体構成	粘土に慣れ、適切な力加減や工夫により、丁寧に塑像する。 計画的に作業する。 使用材料の加工法について理解し、試作を重ねて、表現を工夫する。
	2				
	3				

科目（講座名）	書道Ⅱ	2単位	必修選択
教科書	書Ⅱ（教育図書）		

学習の目標

書道Ⅰの基礎的能力を伸ばし、書芸術について深く認識し、完成度の高い作品作りを目指す。
 書の文化や伝統について理解を深め、個性豊かな表現ができるよう能力を伸ばす。
 生活の中での書の位置づけや、書を身近なものとして認識できるようにする。

授業内容

古典の臨書を通して幅広い技法を身につけ、創作作品を製作する。
 生活の中の書・実用書の学習。

学習方法

講義、実技(臨書、創作)作品制作
 一斉学習(全員同じ課題に取り組む)
 個別学習(各自課題を決定したものに取組む)

評価の観点

関心・意欲・態度	書道に関心を持ち、課題には積極的、意欲的に取り組み、またより一層の完成度の高い作品制作を心がける。
芸術的な感受や表現の工夫	種々の古典技法や作品にふれて深く理解、鑑賞する能力を身につけ、それを自己表現へとつなげていく。
創造的な表現の技能	用具や用材について理解、研究し、筆墨のみの表現にとらわれない自由な態度で自己表現する。
鑑賞の能力	自己の感受性を磨き、幅広い作品に目を向け、その美しさが理解できて自己表現の糧としている。

評価方法

技術の習得度、作品の完成度、授業への積極性、提出物、学習態度、出席状況
 上記の観点について年間の成績を総合的に判断し評価する。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	6	臨書	自ら古典を選び臨書する (3字または4字)	文の選び方から字の大きさと落款の位置も考えながら高い完成度を目指して作品をまとめる
	5	6	臨書	唐の四大家の臨書	それぞれの書の特徴を理解する。
	6	4	草書	十七帖・書譜の臨書	草書の成り立ちと特徴を学ぶ
	7	2	臨書	半紙1/2に臨書作品を完成させる。	半紙より大きい画仙紙で作品を仕上げる
2	9	4	篆書	泰山刻石・石鼓文の臨書	篆書の成り立ちと基本用筆、字形の特徴を他の書体と比べながら理解する
	10	6	篆刻	姓名印の制作	自分の名前の篆書体を知る
			印を製材する	印を刻ることをイメージしながら丁寧な印稿作りをする	
			印稿を書く	篆刻用具の正しい使い方を知り、安全に気を配りながら印を刻す	
			印を刻す	より美しい印影になるよう押印の方法を繰り返し練習する	
11	4	隷書	曹全碑の臨書	隷書の成り立ちと基本用筆、特に波磔と扁平な字形を理解する	
12	4	生活の中の書	居延漢簡の臨書	実際に木簡に文字を書き、紙との違いを理解する	
			年賀状の制作	ハガキの宛て名の基本的な書き方を覚える 小筆を使って紙面構成を考えながら仕上げる	
3	1	8	仮名	高野切第一種の臨書	墨を適度な濃さにすること、またその墨の潤濁に留意して短冊、色紙に書く
	2	8	小品(額)作り	創作(はがきサイズ) 熟語を選び、それに合った用具用材を考えはがきサイズに仕上げる	今まで学習した書体、表現方法を応用して自分らしい表現をする
	3	4	漢字仮名交じりの書	詩文など自ら文を選び、それに合った用具用材を考え半切に書く	漢字と平仮名のバランス、紙面構成に工夫して文に合った表現をする